

2019 年 2 月 18 日

公益財団法人 新聞通信調査会

2018 年度「ボーン・上田記念国際記者賞」授賞者決定

公益財団法人新聞通信調査会の「ボーン・上田記念国際記者賞委員会」は 18 日、2018 年度の同賞を朝日新聞社ニューヨーク支局の金成隆一（かなり・りゅういち）記者と日本経済新聞社コメンテーターの秋田浩之（あきた・ひろゆき）記者に贈ることを決めたと発表した。同賞は優れた国際報道を顕彰するものである。

現在の世界は歴史的な転換期、ないしは大きな過渡期にある。第 2 次世界大戦後の秩序を支えてきた多国間の協調路線が、一国中心主義や保護貿易主義、あるいはポピュリズムの台頭により揺らぎだしている。地政学的環境はこの何十年間で最悪だとも言われる。米国と中国との競争、対立をめぐっては「新冷戦」が始まったとの見方も生まれた。国際情勢は非連続な変化を見せつつある。

世界が、そして日本がこの転換期、過渡期におけるさまざまな動きをどうとらえ、いかに対応していくか。「ポスト真実」時代と呼ばれ、フェイクニュースも横行している。そのなかで、社会には新たなメディア・リテラシーが求められているが、ジャーナリズムとジャーナリストの役割が期待され、力量も厳しく問われ、試されてもいる。

金成記者は、トランプ大統領を生んだ米国の政治・社会の地殻変動に 2016 年の大統領選挙の前から注目し、後に「トランプ王国」と名付けたオハイオ州の“ラストベルト”を徹底的かつ継続的に取材した。トランプ現象の底流にある米国社会の分断状態をいきいきと描き出した。取材は徹底した現場取材で、ラストベルトの中心的地域にアパートを借りて定点観測を続けた。地域住民のなかに飛び込み、人々の本音を探り、2018 年の中間選挙の時期にはトランプ王国に微妙な変化が生まれつつあることも生々しく報じた。文

章はわかりやすく、取材した住民の肉声が聞こえてくるようである。2018年10月刊行の著作『記者、ラストベルトに住む：トランプ王国、冷めぬ熱狂』は良質のドキュメンタリーである。

金成記者はそうした現場取材、定点観測で実感したことを、米国の右派の心象風景を描きベストセラーとなった著書で知られる著名な社会学者にぶつけて検証を試みるなど、米国社会全体の地殻変動のなかで位置づけようとしている。同記者の取材での発見は、トランプ大統領の誕生によって米国が変わりだしたというより、むしろ米国社会の分断、底流の変化そのものがトランプ現象を生んだのではないかといった示唆を与えるものである。

秋田記者は米中の「冷戦」、北朝鮮の非核化問題、中国とロシアの接近といった世界的に注目を集めた国際ニュースをカバーし、多くの秘話を織り込みながら、深みのある分析記事、論評を書き続けてきた。同記者のカバーするテーマは広範囲にわたり、さまざまな事象を確かな座標軸をもって位置づけ、その意義を追求する姿勢が見受けられる。文章は平易であり、安定感がある。

秋田記者は記事執筆のほか、日米欧の官民対話（米ジャーマン・マーシャル財団主催）、日本・ASEAN・メディア・フォーラム（国際交流基金主催）やアジア安全保障会議（シャングリラ会合）など、海外で開催される多くの国際会議に参加し、日本を代表して情報発信した。また「日経プラス10」（BSテレビ東京）などの報道番組にも多数出演し、外交問題を解説した。

金成記者は1976年生まれ。2000年朝日新聞社入社。神戸支局、静岡支局、大阪社会部、米ハーバード大日米関係プログラム研究員、国際報道部などを経て14年9月からニューヨーク特派員。大阪社会部での教育担当時代に「教育のオープン化」をめぐる一連の報道で第21回坂田記念ジャーナリズム賞（国際交流・貢献報道）受賞。茨城県出身。42歳。

秋田記者は1965年生まれ。1987年自由学園最高学部卒。同年日本経済新聞社入社。米ボストン大学大学院修了、流通経済部、国際第1部を経て94

年から 98 年まで北京支局。政治部を経て 02 年から 06 年までワシントン支局、06 年から 07 年まで米ハーバード大日米関係プログラム研究員。10 年から 17 年まで編集委員兼論説委員。17 年 2 月からコメンテーター。16 年 10 月から 12 月まで英フィナンシャル・タイムズ紙のロンドン本社の社説執筆チームに出向した。東京都出身。53 歳。

ボーン・上田記念国際記者賞は、日米協力による自主的な世界ニュース通信網の確立に献身したマイルズ・W・ボーン元 UP 通信社(後の UPI 通信社)副社長、および同氏と親交のあった上田碩三(うえだ・せきぞう)元電通社長が 1949 年に東京湾の浦安沖で遭難されたのを惜しみ、また両氏の功績を顕彰して 1950 年に設けられた。優れた国際報道を通じて国際理解の促進に顕著な貢献のあった記者個人に贈られる。

授賞式は 3 月 22 日(金)午後 6 時から東京内幸町の日本記者クラブで行う。また金成、秋田両記者による受賞記念の講演会は 3 月 23 日(土)午前 10 時から横浜の横浜情報文化センター 6 階の「情文ホール」で開催します。定員 100 人、入場無料です。申し込み・詳細は日本新聞博物館のホームページ <https://newspark.jp/newspark/>を参照してください。



金成隆一氏



秋田浩之氏

◆公益財団法人新聞通信調査会とは

新聞通信調査会は、新聞社や通信社をはじめとするメディアの発展に寄与することを目的にジャーナリズムやマスコミュニケーションの調査・研究をしている公益財団法人です。デジタルアーカイブ事業のほか写真展開催や世論調査の実施、シンポジウム・講演会の開催、月刊誌『メディア展望』の発行、国際報道部門で優れた業績を残した記者に「ボーン・上田記念国際記者

賞」を授与する表彰事業、出版補助事業、通信社ライブラリーの運営などさまざまな公益事業を展開しています。

名称 公益財団法人 新聞通信調査会
英文名称 Japan Press Research Institute (略称 JPRI)
設立年月日 1947 年 12 月 15 日
公益財団法人移行 2009 年 12 月 24 日
代表者 西沢豊理事長

(問い合わせ先)

▽賞の内容について

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1
日本プレスセンタービル 1 階
公益財団法人新聞通信調査会
ポーン・上田記念国際記者賞担当
電話 03-3593-1081
e-mail chosakai@helen.ocn.ne.jp
担当 東郷、岡野

▽受賞記念講演会について

〒231-8311 横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
日本新聞博物館
電話 045-661-2040
e-mail : hakubutsukan@pressnet.or.jp
担当 横井

以上